

4. 地域の無秩序

居住地域の環境認知のうち、犯罪とはいえないまでも地域環境の整備不足や、秩序のびん乱、有害環境の存在を示すと考えられる11の項目について、対象者がどの程度見かけるかを「非常に見かける」から「ほとんど見かけない」までの3段階に、「わからない」を加えた4つの選択肢から回答してもらい、見かける頻度が高いほど高い点数を与えたものを地域ごとに平均した。対象者に尋ねた11項目は、以下のイ) からル) のとおりである。

- イ) 少年が集団でたむろして、たばこをすっている
- ロ) 路上で人が言い争っている
- ハ) ホームレスらしい人がいる
- ニ) 夜、暴走族が走り回っている
- ホ) 路上にゴミが散乱している
- ヘ) 空き地にゴミが捨てられている
- ト) 公園のベンチや公衆電話が壊されたり、落書きされたままになっている
- チ) 自転車やバイクが路上に乗りすてられている
- リ) 風俗店の立て看板が路上の人目につくところに出ている
- ヌ) わいせつな雑誌やビデオが自動販売機で売られている
- ル) テレクラの会員券やツーショットカードが自動販売機で売られている

この地域内の無秩序を示す項目と犯罪発生や犯罪不安感との関連(相関係数)をまとめたものが表2-4-1と表2-4-2である。表2-4-1には、地域の無秩序と犯罪発生との関連(相関係数)を示した。ここでも最も多くの地域内無秩序を示す項目と関連を示したのは、ひったくりの認知件数で、相関係数.20以上の正の関連が多く見られ、ほとんど無相関だったのは4項目のみとなっている。特に、「少年が集団でたむろして、タバコをすっている」(.56)、「路上で人が言い争っている」(.39)、「路上にゴミが散乱している」(.39) の3項目では関連が強く、こうした居住環境のある地域では、ひったくりの認知件数も多くなる傾向が見られる。そのほかにも、「ホームレスらしい人がいる」(.30) でも正の関連が見られた。これらのトラブルの発生や管理の悪さを示す項目に続いて相関係数の値が大きいのは、「風俗店の立て看板が路上の人目につくところに出ている」(.33)、「テレクラの会員券やツーショットカードが自動販売機で売られている」(.30) であり、いずれも性風俗店に関する項目となっている。こうした看板や自動販売機は主に人通りの多い場所に設置されていることから、地域の交通量の多さがひったくりの認知件数と有害環境の程度の双方に関連している可能性もあるため、さらに詳細な分析が

必要であろう。図2-4-1には、ひったくりの認知件数と、「少年が集団でたむろして、タバコをすっている」という項目の回答の関連を、町丁目別分布として図示した。一方、ひったくりの自己報告被害と地域内無秩序の項目との関連を見ると、ひったくりの認知件数とは逆に「風俗店の立て看板が路上の人目につくところに出ている」(-.21)、「テレクラの会員券やツーショットカードが自動販売機で売られている」(-.20)という性風俗に関する項目と負の関連があったほか、「ホームレスらしい人がいる」(-.24)でも同様の結果となっている。こうした認知件数との逆の結果は、認知件数で得られている事件形態と、自己報告で得られた事件形態が異なることが考えられるが、この点についてもさらに詳細な分析が必要である。また、性犯罪の自己報告との関連を見ると、「路上で人が言い争っている」では-.22という負の相関が見られる一方、「夜、暴走族が走り回っている」では.19という正の相関が見られる。性犯罪はこの表で取り上げた罪種のうち、地域の居住環境よりも犯人・被害者という人的側面が最も事件発生に影響するものであることと、発生件数が比較的少ないことを考えると、事件発生地域の居住環境に一定の傾向が見られない可能性がある。バンダリズムの自己申告被害と地域の無秩序との関連については、絶対値.20以上の相関係数の高い項目がなく、事件の多発地点と地域環境の間に一定の傾向を見出すことは難しい。

表2-4-1 地域の無秩序と犯罪の認知・被害状況

	ひったくり 認知件数 (人口千人あたり)	居住地域での犯罪被害 (過去5年間)		
		ひったくり	バンダリズム	性的犯罪
集団でたむろして、タバコを吸っている少年	0.56	0.06	0.13	-0.10
路上で言い争っている人	0.39	0.13	0.00	-0.22
ホームレスらしい人	0.30	-0.24	-0.15	0.17
夜間走り回る暴走族	0.06	-0.10	-0.07	0.19
路上のゴミ	0.39	-0.05	-0.07	-0.13
空き地のゴミ	0.01	0.02	0.09	0.03
壊されたり、落書きされた公園のベンチや公衆電話	0.03	-0.06	0.02	0.07
路上に乗り捨てられた自転車やバイク	0.16	-0.02	-0.16	-0.05
路上の人目に付くところに風俗店の立て看板	0.33	-0.20	-0.10	-0.05
わいせつ雑誌やビデオの自動販売機	0.01	0.14	0.09	-0.16
テレクラの会員券やツーショットカードの自動販売機	0.20	-0.21	-0.13	-0.06

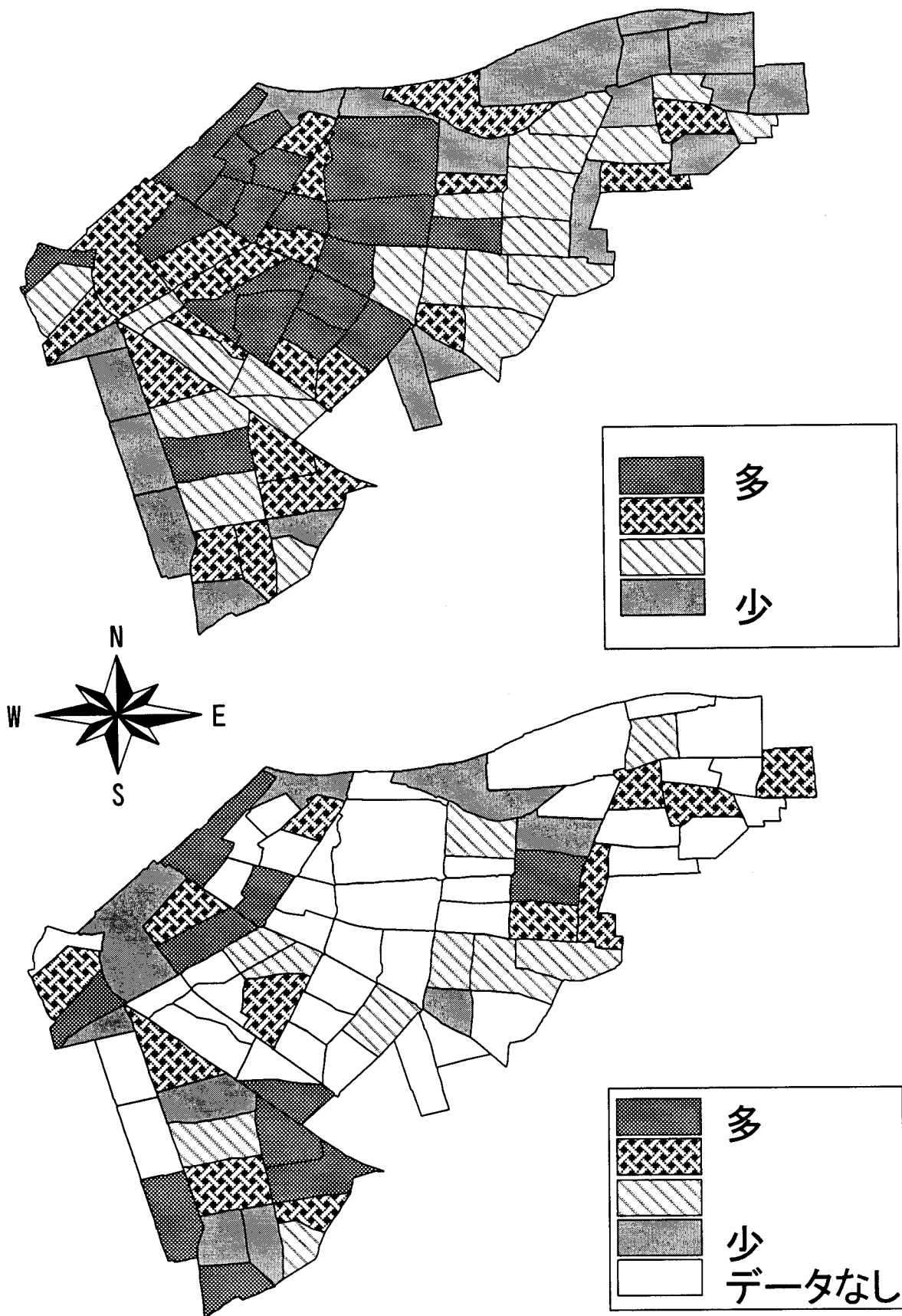


図2-4-1 ひったくりの認知件数(上段), 集団で喫煙している少年(下段)

次に、表2-4-2には、地域内の無秩序を示す項目と犯罪不安感との関連（相関係数）をまとめた。前表と比較すると、いずれの犯罪の不安感についても様々な地域の無秩序を示す項目と相関関係が見られる。最も多くの項目と関連が見られるのは、バンダリズムに対する犯罪不安感で、「少年が集団でたむろして、タバコをすっている」(.31)、「路上で人が言い争っている」(.25)といった項目との関連が強く、こうした非行集団や、暴力的な人々の存在が多いと認知されている地域においては、バンダリズム被害への不安感が高くなっており、上記のような無秩序な活動を担う人々が加害者予備軍として回答者に認知されていると考えられる。そのほかには、「空き地にゴミが捨てられている」(.27)、「路上にゴミが散乱している」(.26)、「自転車やバイクが路上に乗りすてられている」(.27)といった項目でもバンダリズムの犯罪被害不安感と正の相関が見られ、こうした状況がよく見受けられる地域ほど、バンダリズムに対する不安を抱えている回答者が多かった。比較的相関が高い項目は、加害者（予備軍）に関する項目であり、まずはそうした人々の存在が不安感と結びついていることが考えられ、一方で地域環境の管理の悪さに関する項目との相関も高くなっている。

ひったくりに関する犯罪不安感と地域の無秩序に関する項目との関連を見ると、「自転車やバイクが路上に乗りすてられている」(.42)、「路上にゴミが散乱している」(.35)、「空き地にゴミが捨てられている」(.29)、「ホームレスらしい人がいる」(.21)、といった項目で正の相関が見られ、こうした状況が多い地域ほどひったくりの犯罪不安感が高い傾向がある。バンダリズムの場合とは逆に、人的側面よりも環境の管理に関する項目の方が相関係数の値が大きくなっている。図2-4-2には、ひったくりに対する不安感と、「自転車やバイクが路上に乗りすてられている」への回答の地域的な関連をまとめた。一方、性犯罪に対する不安感と地域の無秩序との関連を見ると「自転車やバイクが路上に乗りすてられている」(.31)、「路上にゴミが散乱し

表2-4-2 地域内の無秩序と犯罪被害に対する不安感

	犯罪不安感		
	バンダリズム	ひったくり	性的犯罪
集団でたむろして、たばこを吸っている少年	0.31	0.13	0.11
路上で言い争っている人	0.25	0.13	-0.03
ホームレスらしい人	0.02	0.21	0.11
夜間走り回る暴走族	0.14	0.00	0.28
路上のゴミ	0.26	0.35	0.28
空き地のゴミ	0.27	0.29	0.04
壊されたり、落書きされた公園のベンチや公衆電話	0.15	-0.03	-0.14
路上に乗り捨てられた自転車やバイク	0.27	0.42	0.31
路上の人目に付くところに風俗店の立て看板	-0.10	0.13	-0.10
わいせつ雑誌やビデオの自動販売機	0.19	0.06	0.11
テレクラの会員券やツーショットカードの自動販売機	0.06	-0.10	-0.14

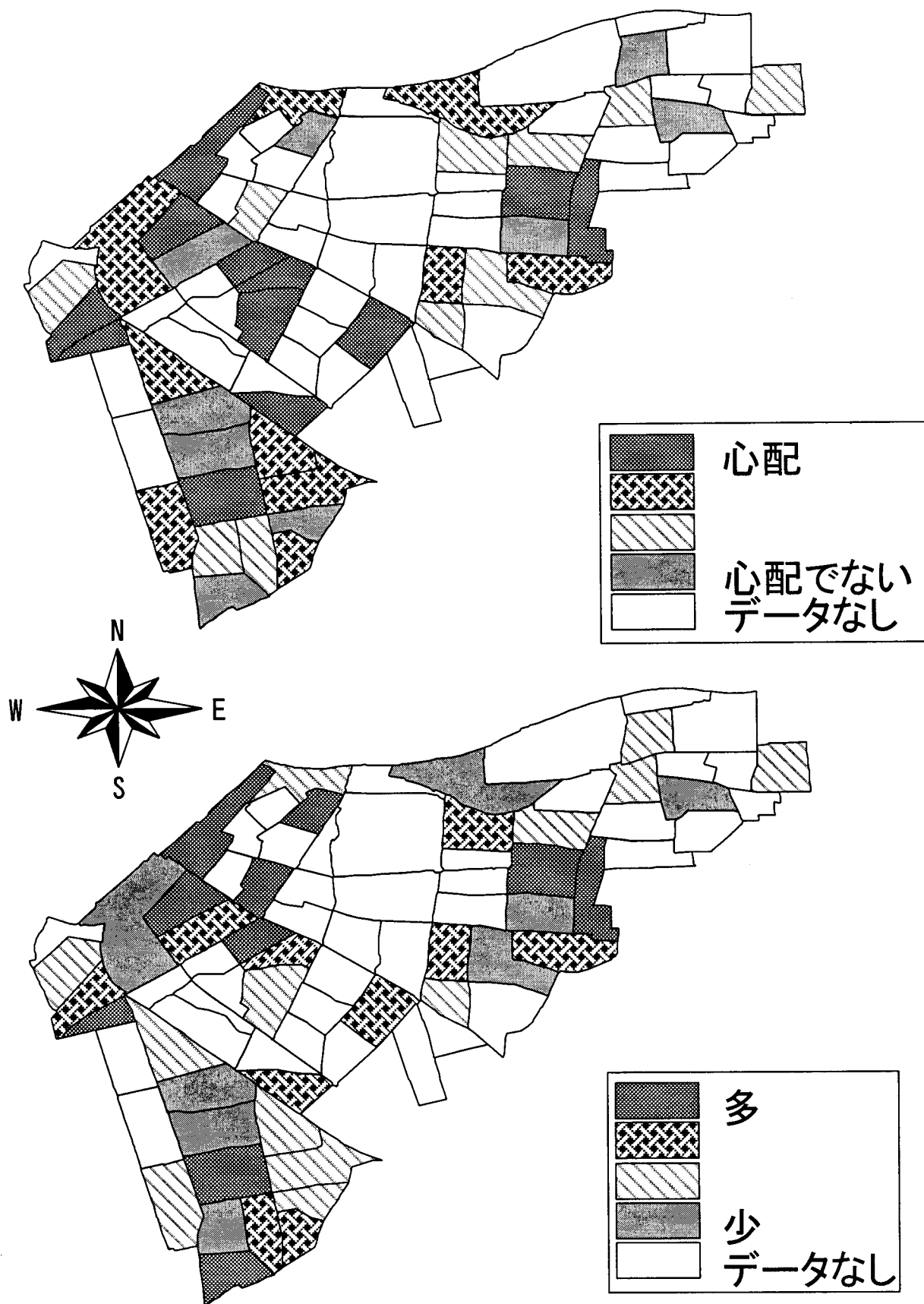


図2-4-2 ひったくりの不安感(上段), 路上に乗り捨てられた自転車やバイク(下段)

ている」(.28)、といった環境整備の不足を示す項目のほかに、「夜、暴走族が走り回っている」(.28)、という項目とも正の関連が見られる。「少年が集団でたむろして、たばこをすっている」、「ホームレスらしい人がいる」、といった項目との相関は高くないものの、人的側面についての項目と性犯罪に対する不安感との関連が想定され、適切な質問項目を作成することによって、明らかな相関関係を見いだせる可能性がある。

以上をまとめると、犯罪不安感と地域の無秩序性との関連を見ると、今回取り上げた罪種で、環境的側面と人的側面の双方の無秩序性が犯罪不安感と関連しているが、その態様は罪種により異なることが想定される。すなわち、性犯罪の場合では環境の側面よりも人的側面の影響が大きく、ひったくりの場合では環境の管理の側面が人的側面の影響よりも大きくなる。またバンダリズムの被害不安については、人的・環境的側面との関連が見られるものの、どちらかといえば加害者予備軍の存在としての人的側面の影響の方が相関が大きくなっている。

5. 日常の安全確保の取り組み

表2-5-1と表2-5-2は、地域住民による日常の安全確保の取り組み、特に近所の人や警察など公的機関と協働して行う安全確保の取り組みと治安状況との関連(相関係数)を示したものである。

表2-5-1と表2-5-2において共通して示された、治安状況以外の変数の内容は以下の通りで、いずれも町丁目単位で回答者の回答を平均したものである。

「不審な人物を見かけたら、近所の人に注意を促す」「外出するとき、近所の人や管理人に一声かける」「近所の人と防犯パトロールをする」「近所の人と地域の安全について話し合う」…この4項目は、いずれも日常どの程度心がけて行っているかを、「いつもしている」「ときどきしている」「ほとんどしない」で尋ね、心がけて行っている方をプラスに得点化した。

「地域の防犯活動や非行防止活動への参加」…現在、地域の防犯活動や非行防止活動にどの程度参加しているかを、「積極的に参加している」「一応参加している」「参加していない」「この地域では、そのような活動が行われていないと思う」の4件法で尋ね、積極的な参加の方がプラスになるように得点化した。

まず、「日常の安全確保の取り組み」と犯罪発生との関連(相関係数)を示したのが、表2-5-1である。まず、ひったくりの認知件数については、「外出するとき、近所の人や管理人に一声かける」「近所の人と防犯パトロールをする」「近所の人と地域の安全について話し合う」「地域の防犯活動や非行防止活動への参加」のそれぞれとの間で、絶対値が.21以上の負の